

第1回長久手市古戦場公園再整備アドバイザー会議(R7.6.26)でいただいた御意見及びその対応について

	御意見	対応について
全体		
	¹ 国史跡のガイダンス施設として、展示内容が全体として、史跡そのものを紹介できているか、その構成要素である御旗山等や来歴、現地の理解に資するものであるかという視点で、展示内容を深めて欲しい。国指定の史跡は全国で約2,000件あるが、「古戦場」は8件のみであり、そのうち3件が愛知県内に存在する。この数字が歴史的価値を物語っている。愛知県に集まっている重層性を伝える必要がある。	グラフィック全体を通して、歴史の大局的な評価の中で、戦いをめぐる人々の動きも位置づけ、歴史の転換点であったことを伝えていきます。
	² 例えば、秀吉は龍泉寺までしか到達しておらず、本陣に引き返している。「家康と秀吉の直接対決」と表現している一方で、秀吉は長久手までは来ていない、ということを正しく理解いただく必要がある。	シアター映像（戦国絵巻）、マッピング映像に反映させました。
	³ この合戦が当時の地域の人にどう影響を与えたかなど、色々な立場からの視点を入れられると良い。	グラフィックの部分で、例えば地域の寺社などがどう捉えていたのか、後世の人にどう捉えられていたかなどを、尾張藩士などの例も紹介し、語り継がれてきたことを記載します。
シアター映像：戦国絵巻		
	⁴ 天正地震には触れなくてもよい。	天正地震は天正13年に発生しており、天正12年の小牧・長久手の戦いの和睦には直接の影響を与えていないため、シアター映像では扱わないこととします。
	⁵ 和睦のシーンで、秀吉が「負けた」というセリフがあるが、どの時点での言葉か、検討が必要である。	家康の存在を無視できない、ということを伝えるセリフに修正し、構成を見直しました。
	⁶ タイトルの「歴史はここ長久手で動いた」が意味するところを伝える必要がある。	

		御意見	対応について
	7	前提として、小牧・長久手の戦い当時の、家康と秀吉の領土等の差を示しておく必要がある。	年表、勢力図などのグラフィックに反映させます。
	8	可児の合戦も入れると良い。	
	9	全国戦であったことを説明すべきである。	
	10	甲冑は、専門家に確認してもらうと良い。	日本服飾史の専門家に確認します。
	11	小牧城の天守、岩崎城の櫓の有無、小牧・長久手の戦いから2年後の大坂城の姿など、議論になりやすいところは、慎重に描くようにされたい。	確認し、絵に反映させます。
シアター映像：「リニモが見た！」			
	12	「男子は戦国武将が好き～」などの表現が、現在の学校教育の感覚と少し違うように感じる。教育的な立場から見てどうか確認した方が良い。	教育委員会にも確認し、セリフを一部修正しました。
	13	戦死者をどう吊っていたかを示すと良い。石碑は、徳川方の記念であるとともに死者を吊ったものでもある。戦いの後の、地域の人の関わり方や武将同士の対応を紹介すると視野が広がる。	安昌寺の雲山和尚が戦死者を敵味方なく吊ったこと、尾張藩士が塚を建立し、何度も訪れていること等を、展示の最後の「史跡を守る長久手の歴史と文化」のコーナーで扱います。
マッピング映像			
	14	音の干渉を考え、指向性スピーカーが望ましい。	マッピング映像のエリアサイズに適するスピーカーを選択し、合わせて、他のコーナーに影響が出ないように、現場で音量等を調整します。
	15	エンドレス再生（オートリピート）の方が望ましい。	オートリピート方式とします。
	16	両軍の大きさや、秀吉方が尾張に進軍して信雄の領地に入った、ということが分かるようにされたい。	秀吉と信雄・家康の勢力図を示すようシナリオを修正しました。

	御意見	対応について
武将がたり（9名）		
	17 本人が語る形のため、見る人は本当のことだと思ってしまうので注意が必要である。	武将を身近に感じていただくことを目的としたコンテンツのため、できる限りセリフを精査し、武将が語るコンテンツとします。
	18 織田信雄が言う「戦後」は長久手の戦いか。「江戸に名を残しているのは我が一族のみ」は正しいか。	シナリオを修正します。
	19 安藤直次の「家康様の息子である頼宣様～」の息子という言い方は正しいか。	
	20 家紋を入れるなら、その解説も入れて欲しい。	古戦場クイズコーナーに、家紋の解説を加えます。
	21 武将語りの投影位置は、屏風を引きで見たい人と干渉しないようにレイアウトを考慮した方が良い。	プロジェクター設置位置を検討します。
複製資料		
	22 邑絵図、陣立図はいくつかあるので、どれを複製するか検討が必要。蓬左文庫にも所蔵されている。	長久手市内に伝わる「尾州愛知郡長久手邑地図」を複製します。陣立図は、長久手町史や愛知県史を参考に選定しました。
	23 甲冑についても、製作年代・名称・伝承等を明記して欲しい。	キャプションに反映させます。
ケース		
	24 ケースの高さは、車椅子ユーザーに配慮すること。	低めのケースとします（展示台高さH500～650）
	25 ケースを開閉する機構がダンパーの場合、経年で動かなくなることがあるので注意が必要。	平型覗きケースのみガラスハッチ跳ね上げ式でダンパーを使用しますが、その他のハイケースの蓋は置き式とします。
レギュレーション		
	26 解説文の基準は、中学3年生までに習う知識を前提に記述すると、一般の人にも十分な内容となる。	グラフィックのレギュレーションはご指摘のとおりとし、小学校低学年の子ども向けに、分かりやすい解説パネルを作成します。
空気環境		
	27 空気環境調査は、開館前の早い段階で行い、コンサベーション環境を整えること。	調整します。

	御意見	対応について
消防設備等		
	<p>28 ・過去、他館において、消防から不特定多数の観覧者が想定される展示室は消火栓による消火のみ、と指導を受けたことがある。</p> <p>・ハロンガス設備について、手動／自動の切替は、ヒューマンエラーが起きやすい。運用を検討すること。</p>	消防設備の運用については、指定管理者と十分協議します。
	<p>29 展示室、収蔵庫の照明、コンセントの電源を一括オフすることは可能か。</p>	可能です。
障がい者への配慮		
	<p>30 緊急時の避難サインも、視覚障がい、聴覚障がいに対応できるように考えておく必要がある。音声や光などの配慮とともに、マニュアル化と訓練も必要である。</p>	緊急時の避難マニュアル作成、訓練等の運用については、指定管理者と十分協議します。